

11月特別例会「しゃぼん玉」

16周年記念事業

16周年記念事業／特別例会

昨年度は、15周年記念事業として、ふだんは、会員対象の映画鑑賞会である例会を、一般の方も有料で観ることができる特別例会として3回実施しました。今年も、6月例会と11月例会を16周年記念事業として実施いたします。

会員の皆様には、特別例会の実施にあたり、チラシの配布やクチコミなど、会員以外の皆さんにも、ご来場いただきますよう、ご協力お願いいたします。

例会のお知らせ

■名称／第99回例会『しゃぼん玉』

■日時／11月20日(火)

①PM 2:00ー、②PM 4:20ー、③PM 6:40ー

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／しゃぼん玉

■監督・脚本／東伸児

■原作／乃南アサ

■出演／林遣都、藤井美菜、相島一之、綿引勝彦、市原悦子

■主題歌／秦基博

■データ／2016年、日本、108分

■ジャンル／ヒューマンドラマ

■解説・ストーリー／直木賞作家・乃南アサのベストセラー小説を林遣都と市原悦子をキャストイングし、待望の映画化！宮崎県の大自然を舞台にした感涙のドラマ。

親の愛情を知らずに育ち、女性や老人だけを狙った通り魔や強盗傷害を繰り返してきた伊豆見翔人(林遣都)。

人を刺し、逃亡途中に迷い込んだ宮崎県の山深い椎葉村で怪我をした老婆スマ(市原悦子)を助けたことがきっかけで、彼女の家に寝泊まりするようになった。初めは金を盗んで逃げるつもりだったが、伊豆見をスマの孫だと勘違



いた村の人々に世話を焼かれ、山仕事や祭りの準備を手伝われるうちに、伊豆見の荒んだ心に少しずつ変化が訪れた。

そして10年ぶりに村に帰ってきた美知(藤井美菜)との、出会いから、自分が犯した罪を自覚し始める。

「今まで諦めていた人生をやり直したい」
—決意を秘めた伊豆見は、どこへ向かうのか...。 “死にゆく母と、残される家族が紡ぎだす愛”という普遍的なテーマを、想像できない展開とラストにより、涙と生きる力がほとぼしる。(作品ホームページから一部抜粋)

私の映画KAN

「幸せの絵の具 ～愛を描く人モードリス～」

パンフレットとタイトルが可愛すぎて「幸せの絵の具 ～愛を描く人モードリス～」を見てきました！

美しい風景や動物たちを描いた素朴な作風で知られるカナダの画家モード・ルイスの伝記ドラマ。絵と自由を愛したモードの人生を、彼女を支え続けた夫との関係を軸に

描き出す。

子どもの頃から重度のリウマチを患っているモード。孤児院育ちで学もないエベレット。孤独だった2人が運命的な出会いを経て、夫婦の絆とたしかな幸せを手に入れた感動の実話。

2人の同居生活はトラブル続き、エレベットはドン引きするほど偏屈なんですけど、2人が住んでいる4メートル四方の小さな家は2人の関係とリンクしてて、2人の距離が近くなればなるほど、モードの絵が増えて、二人の家になっていくんですよ～

家のシーンが多い、町までの距離がシーンとしても遠いところも印象的でした。世間で受け入れられないはみ出し者の二人が誰にも干渉されず二人だけの世界で生きる、自分の居場所を見つけ慎ましい生活の中で好きなものだけを見つめ続けていく二人にほっこりでした。(菅天子)

■題名／幸せの絵の具～愛を描く人モードルイス～

■監督／アシュリング・ウォルシュ

■出演／サリー・ホーキンス、イーサン・ホーク、カリ・マチュエット、ガブリエル・ローズ、ザカリー・ベネット

■2016年、カナダ、116分

訃報

加古川シネマクラブ創設時からのメンバーで、初代表委員で現在の運営委員の岡本健一郎さんが、9月30日に逝去なさいました(67歳)。岡本さんは、兵庫県映画センターの代表でもあり、全国の映画鑑賞団体の中心人物として、生涯、良い映画の上映活動や制作支援など映画文化の発展に身を捧げておられました。ご冥福をお祈りするとともに、会員の皆様にお伝えいたします。

闘病中は、**李相日監督**をはじめ多くの映画人とお別れをなさったということです。

10月21日に「お別れの会」があり、多くの監督など映画制作にかかわる方や映画鑑賞団体方の列席がありました。松竹からは**山田洋次監督**ら託された黄色いハンカチが献



じられ、**池谷薫監督**が撮影した病床の中で映画に対する思いを語る姿がドキュメンタリー映画のように上映されました。

前回例会の報告

9月19日の例会は、**イヴァーノ・デ・マッテオ監督**が、北イタリアの美しいトリノの街を舞台に、過ちを嘆いたり、幸運を忘れたり、それでも人生より素晴らしいものはない、

と、新たな人生の可能性を謳いあげる感動作。さまざまな困難を抱えつつも、前を向いて生きていこうとする女性たちの姿を描いた『**はじまりの街**』を鑑賞しました。ストーリーも俳優も映像も、すべて良質で、参加者からもたいへん好評を得ました。参加者が少なかったことが、実にもったいない、と思います。

参加会員 91人、明石シネマクラブからの参加者 7人、計 98人の参加者でした。

明石シネマクラブ第52回例会情報

■名称／『君の笑顔に会いたくて』

(2017年、日本、100分)

■解説／犯罪を犯してしまった子どもたちに寄り添い更正を助けてきた、宮城県名取市在住の保護司・大沼えり



子さんをモデルに、保護司の活動や苦悩、喜びを描き、「地域社会と家族の再生」を訴えかけるヒューマンドラマ。

■監督／植田中

■出演／洞口依子、寛利夫、石丸謙二郎、かとうかず子、雛形あきこ

■日時／12月12日(水)

①PM 2:00—、②PM 4:30—、③PM 7:00—

■場所／アスパア明石 9階子午線ホール(JR明石駅徒歩5分)

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kalogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

会員数 125人(9月19日現在)